

# わたしに問わなかった者たちに、わたしは尋ねられ わたしを捜さなかった者たちに、見つけられた

第164号

イザヤ 65:1

平成21年5月29日

モーセは、イスラエルのすべてを呼び寄せて言った。あなたがたは、エジプトの地で、パロと、そのすべての家臣たちと、その全土とに対して、主があなたがたの目の前でなされた事を、ことごとく見た。あなたが、自分の目を見たあの大きな試み、それは大きなしるしと不思議であった。しかし、主は今日に至るまで、あなたがたに、悟る心と、見る目と、聞く耳を、下さらなかった……

あなたに約束されたように、またあなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われたように、今日、あなたを立ててご自分の民とし、またご自身があなたの神となられるためである。

しかし、私は、ただあなたがたとだけ、この契約とのろいの誓いとを結ぶのではない……ならびに、きょう、ここに、私たちとともにいない者に対しても結ぶのである……

主は、このみおしえの書にしている契約のすべてののろいの誓いにしたが、その者をイスラエルの全部族からより分けて、わざわいを下される。後の世代、あなたがたの後に起こるあなたがたの子孫や、遠くの地から来る外国人は、この地の災害と主がこの地に起こされた病気を見て、言うであろう……「なぜ、主はこの地に、このようなことをしたのか。この激しい燃える怒りは、なぜなのだ…… 主は、怒りと、憤激と、激怒とをもって、彼らをこの地から根こぎにし、ほかの地に投げ捨てた。今日あるとおりに。

隠されていることは、私たちの神、主のものである。しかし、現されたことは、永遠に、私たちと私たちの子孫のものであり、私たちがこのみおしえのすべてのことばを行うためである。

私があなたの前に置いた祝福とのろい、これらすべてのことが、あなたに臨み、あなたの神、主があなたをそこへ追い散らしたすべての国々の中で、あなたがこれらのことを心に留め、あなたの神、主に立ち返り、今日、私があなたに命じるとおりに、あなたも、あなたの子どもたちも、心を尽くし、精神を尽くして御声に聞き従うなら……主は、あなたの先祖たちが所有していた地にあなたを連れて行き、あなたはそれを所有する。

主は、あなたの心と、あなたの子孫の心を包む皮を切り捨てて……生きるようにされる……主の御声に聞き従い……心を尽くし、精神を尽くして、あなたの神、主に立ち返るからである…… 申命記 29:2-30章

ユダヤ教の伝統では、モーセがシナイ山で律法を受けたのは、シバンの月の六日、「シャブオット」の祭りの初日、ペンテコステの日でした。出エジプトの出来事後、シナイ山で神との契約を通して「神の聖なる民」とされ、異邦人から区別されたイスラエルに与えられた「モーセの掟」は、ユダヤ人を異邦人から引き離す壁になってしまいました。しかし、この隔ての壁を取り除く日が来ることを最初から計画しておられた神は、奇しくもほぼ千四百八十年後のペンテコステの日に、御霊のことばを降り注いで、ユダヤ人も異邦人も掟ではなく聖霊によって、唯一真の神を知ることができるように、「聖霊降臨」という画期的な出来事を起こしてくださったのでした。使徒パウロが「あなたがたは、以前は肉において異邦人でした……あなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあって望みもなく、神もない人たちでした。しかし……キリストの血によって近い者とされたのです。キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです……敵意は十字架によって葬り去られました……」（エペソ人 2:11-18）と教えた、キリストの死を通しての全人類の救いという神の奥義、新約の時代到来を画する出来事でした。

神は、モーセにシナイ山で十戒を含む 613 の掟を授けられましたが、荒野放浪の四十年後に、モアブの草原で、契約の更新をされました。このときまでに、エジプトから救い出された、ヨシュア、カレブを除く六十万余のイスラエルの民はすべて荒野で滅び、新しい世代に代わっていました。申命記 29~30 章は、モーセが契約更新の神の言葉を取り次いだものですが、やがて新約が旧約によって取って変わることを洞察した預言ともいえるメッセージでした。冒頭には引証聖句の一部を七段落に分けて引用しましたが、メッセージにはメシヤの時代に向けて、新約を洞察する七つの特徴が預言されています。モーセよりはるか後世、新約の時代到来を告げた預言者エレミヤは、「**剣を免れて生き残った民は荒野で恵みを得た。イスラエルよ、出て行って休みを得よ**」（エレミヤ書 31:2）と非常に興味深い預言をしています。剣から救い出された民が出ていって、見いだすことになる「恵み」とはまさに、荒野での四十年の放浪後、イスラエルの民に与えられた契約更新を通して示されたこと、ユダヤ人のメシヤ、イエス・キリストを通して確立されることになる新約のことでした。

キリストはこの新約、ご自分の血による契約の始まりを最後の晩餐の席で、「これは、わたしの契約の血で

す。罪を赦すために多くの人のために流されるものです」と予告されましたが、この契約は当事者間の同意によるこの世の契約とは違い、神の恩寵による無条件契約で、神が永遠の生命という遺産を信仰の相続者に与えてくださるといふ、いわばキリストの「遺言」でした。ヘブル人への手紙の著者はこの無条件契約がキリストの贖いの死によって有効となったことをうまく言い表しています。「遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。遺言は、人が死んだとき初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間は、決して効力はありません」（ヘブル人 9：16-17）。罪深い人間にとって旧約を守ることによって生きる道が不可能であることが、イスラエル史を通して人間の目に明らかにされましたが、新しい契約、新約の仲介者キリストがご自分の死を通して開かれた救いの道は、もはや律法の民ユダヤ人だけのものではなく、今や、キリストを信じるすべての人類に、無条件で開かれたのです。モーセはこのように、四十年の放浪の後、遺言ともいえるメッセージ、一新しい世代の民に契約更新の告知、イスラエルの十三部族に対する預言的祝福「モーセの歌」—を告げた直後、百二十歳の生涯を終えたのですが、図らずも、律法授与者モーセの死によって、旧約に代わる新約の時代の到来が有効になったのです。

モーセのメッセージには七つの特徴が洞察されています。1. イスラエルが神のご計画に霊的に盲目になり、理解することができない。パウロは申命記のこの箇所を引用し、ローマ人への手紙 9～11 章で、教会（異邦人）の時代がなぜ到来することになったかを解説しています。次に、人間にはできない旧約（モーセの掟）を成就することのできる唯一の方、キリストの死によってもたらされた新約は、2. イスラエルの族長アブラハムへの無条件契約を包含している ものでした。異邦人教会は、オリーブの根、台木に象徴される選びの民イスラエルにつき木されて初めて、霊的なイスラエルとされ、祝福に与ることができるようになったことを忘れてはならないのです。神のアブラハムへの約束、一子孫の繁栄、王の約束、カナン（シオン）の地所有—はメシヤの時代に必ず成就することになります。3. 異邦人が新約に組み入れられる このことは、初代教会の時代、初めての異邦人—百人隊長コルネリオと親族、親しい友人たち—の上に、ペテロが説教をしている最中に聖霊の賜物が注がれたことによって、明らかになったのです。聖霊が注がれたのを見たペテロは、異邦人にイエス・キリストの名によって水のバプテスマを受けるように命じ、この出来事の後、使徒たちと長老たちが集まった会議の場で、エルサレム教会の長ヤコブは預言書を引用して、「わたしの名で呼ばれる異邦人がみな、主を求めようになるためである。大昔からこれらのことを知らせておられる主が、こう言われる」（使徒の働き 15：16-18）と、異邦人の救いを公に認めたのです。4. 神の選びの民は約束の地から追いつてられる 西暦 32 年にキリストが十字架刑で殺された後、ご自身が預言されたように、西暦 70 年、エルサレムがローマ軍によって包囲され、エルサレム神殿が焼失するという悲劇が起きました。それ以降、ユダヤ人は国を失い、全地に散らされる流浪の民となったのです。西暦 135 年に、ローマ軍は再びエルサレムを滅ぼし、名を「アエリアカピトリナ」に改名し、ユダヤ人を世界の奴隷市場に送り、神の民を約束の地から一掃したのです。他方で、キリスト教会は勢力を増し、制度化された今日の教会の基盤が出来上がっていくことになったのです。5. 奥義 異邦人に救いがもたらされて二千年、神の選びの民イスラエルの盲目状態が今日までまだ続いていることだけでも、大きなぞ、神の奥義ですが、神のご計画の中で、「その日は大いなる日、比べるものもない日だ。ヤコブにも苦難の時だ」とエレミヤが預言し、キリストが「そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう」と預言された大艱難のときがまた訪れることになっているのです。しかし、エレミヤは「しかし彼はそれから救われる」といい、キリストも「しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます」と、救いの希望を明確にされました。パウロも「その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる」（ローマ人 11：25-26）と、大艱難を通してのイスラエルの復興を明らかにしたのです。6. イスラエル、約束の地に帰る 神がご自分のイニシアティブで選ばれた民が、民の側の頑なさのゆえに捨てられるということは、約束に忠実であられ、ご自分の語られたことをすべて成就させることの権威と力を備えておられる神の本質に反することで、あり得ないことです。罪のゆえに懲らしめを受けることはあっても、アブラハムに約束されたイスラエルの民の繁栄、シオンの地所有、メシヤなる王の支配に関する神の宣言は不変で、神は実際に不可能と思えたことを 1948 年 5 月 14 日に成し遂げられたのです。イスラエル国家の誕生です。1892 年に、ユダヤ人の本国帰還が始まり、今日人口七百二十万人、USSR、エチオピアはじめ世界中からの帰還者が続いています。7. 神の恩寵によって、心に神の律法が記される ことにより、ユダヤ人は律法の束縛から解放され、神の御国の相続人、神の証人となる モーセのメッセージの最終段階は、ユダヤ人が二千年前受け入れることを拒んだ、キリストを主、メシヤとして受け入れることにより、肉の割礼ではなく、心に割礼を受ける民に変えられることを洞察しています。エレミヤは「見よ、その日が来る」と声高らかに新約の時代を宣言し、キリストの初臨によって、確かにその日は訪れたのです。しかし、ユダヤ人が霊的盲目状態から解放され、メシヤを受け入れるときは、キリストの再臨によって始まる「メシヤの時代」です。今日、三千五百年前に告げられたモーセの預言の完全な成就のときは非常に近づいているのです。